

## 木を使う工夫で、美しくなる家並み

田舎では、家は全体が見えるので、家の周りも木を使って心地よくしたい。

- ・物置や駐車場→ 木で作ろう
- ・ボイラー、プロパンガスなど→ 板囲いで隠そう
- ・ブロック塀なら→ 焼き板を張ろう

八ヶ岳で家を建てるなら、土地は 200 坪はほしい。隣地から 4 - 5m 離して建てれば、目隠し用に樹木を残せるし、植樹も可能。家や駐車場も直接でなく、木越しに見えれば、自然に溶け込み、家並みが美しい。

## 自然の庭はやすらぐ

八ヶ岳らしい庭が、一番楽しめる。だから、自生の木は絶対残すことを勧める。自然の庭は、野草も良く育ち、飽きることがない。土地に合う自生の木は丈夫に育ち、10 年もすると、八ヶ岳の森の気分を味わえるようになるだろう。

## 木の性質

### 【針葉樹】

◇節在り：枝の跡だが、節は材に表情を出す

◇無節：高級感あり。変形しにくい表情に乏しい

松：強度があり構造材(骨)として、主に梁材に利用

杉：材はやや柔らかいが、断熱性が高い

檜：上質な材として建築に広く利用される

### 【広葉樹】

ケヤキ：耐久性、強度があるため大黒柱や梁に。  
また木目の美しさから、式台・鏡板等の化粧材として使われる

ナラ：家具材、床材として最も多く利用

栗：耐久・耐水性高く、土台等の水周りに適す

桜：堅く耐久性高い。敷居等に適す。

栃：光沢と滑らかさがありテーブルに利用

セン：ケヤキに似た木目で、家具・内装材に利用

タモ：床材や家具材として利用される

## ご存じですが、役立てよう

◆家の構造に使う木の樹齢は？⇒ 材としてやっと十分な太さになる 60 年から 80 年生以上。樹齢 80 年以上になると狂いが少なくなる。

◆一軒の家に必要な材木は？⇒ 30 坪の平屋なら、柱、板を含めると、80 年生の木で 100 本以上か。

◆木の家の寿命は？⇒ 木は樹齢の分だけ、生きる。それ以上に、手入れと住みたい家であることが肝心。

◆伐採時期⇒ 水分が少ない 11 月から 1 月に行うのが良い、かつ山で葉をつけたまま天然乾燥(葉枯らし)した材は、割れが少なく、虫が入りにくく、艶もあり非常に良い。昔は冬の新月期に伐採した。

◆伝統工法⇒ 金物に頼らず木の特性(ねばり)を活かした、木と木を組み合わせる技術で作る日本独自の木造建築工法。戦前まではこの伝統工法。

◆在来工法⇒ 金物や筋交いを使う工法。工期が短いため、戦後広く普及。一般の木造軸組の住宅はこれ。

◆集合材、集成材 ⇒ 加工した木を接着して板や角材にしたもので、無垢の木とは違う。

◆塗料⇒ 無垢の木は生きている。表面に膜を作るペンキではなく、木が呼吸できる素材を使おう。

## 会員、賛助会員になって下さい

景観に関心のある人なら誰でも歓迎

会員：運営、イベントの参加(割引あり)

賛助会員：資金面で会を支援、参加

NPO法人 八ヶ岳南麓景観を考える会

山梨県北杜市大泉町西井出8240-838

TEL&FAX: 0551-38-4027

E-mail: [keikan@w9.dion.ne.jp](mailto:keikan@w9.dion.ne.jp)

<http://keikan.web.infoseek.co.jp>

郵便振替口座 00270-1-72747

これは、住まい作りのメッセージ  
「八ヶ岳に住みたい」の続編です

自然に溶けあう

# 木の家で暮らしたい

八ヶ岳に美しい景観を作りながら



©2006 NPO 法人 八ヶ岳南麓景観を考える会

「緑と水の森林基金」助成事業

06.08.5

## 地元の木を使って家を立てよう

日本は国土の約70%が森林の、木の国です。だから、地元の木で家を作ることは、ごく自然でした。それが、忘れられてしまい、今、森は、手入れされず荒れています。

私たちは、そんな森を元気にするため、森づくりをしています。光が差し込む元気な森は、きれいな水を作り、地球温暖化防止にも繋がります。

森を元気にし、美しくするためには、森の木を使うこと、**木の家を建てること**ではないでしょうか。日本の森を保全するため、**地元の木で、国産の木で家を！**…が私たちの願いです。

私たちは、八ヶ岳に残る古民家が自然と調和して創り出す美しい景観に注目して、調査をしています。古民家は、地元の木や瓦、石を使っているので、風景に溶け込むのです。風土に根ざした木の家は、そこに暮らす人々と共に、歴史を刻み、美しい景観を作ってきました。

このような、素晴らしい景観を作り、森と密接に関係する**木の家**を再認識して、今、家のあり方を見直す必要はないでしょうか。



## 木の家は、自然に似合う

自然が大好きで、自然に囲まれて暮らしたいと思っている泉さん。八ヶ岳の雄大な自然に魅せられ、八ヶ岳に家を建てることにしました。泉さんは、既に、住宅展示場で気に入った家を見つけています。

南欧風の明るくて、ひさしの短い屋根、敷地を有効に使える縦二階、外壁は手入れ不要なタイル張り

でも、泉さんが、八ヶ岳を散歩をしながら、「あっ、いい家だな」と感じるのは、自然に溶け込んでいる家でした。それは、通り過ぎてから、気がつくような、控えめな佇まいの「木の家」です。壁は板張りで黒い屋根の平屋。大きいのに圧迫感がなく、眺めていて心地よいのです。展示場で見た家は、自然には似合わない・・・と思い始めました。



やがて、木の家に住む心地よさも体験した泉さんは、見る人にも心地よく、八ヶ岳の自然に似合う「木の家」を建てることにしました。

？ 泉さんが建てたい家は・・・

- ・ロフトのある平屋、内部は木の天井、壁、床
- ・屋根は単純な切妻の大屋根
- ・屋根の色は、黒か濃茶
- ・外壁は漆喰と、濃茶の板張り
- ・ひさしは長く、冬の日射しが入る程度に
- ・庭は、八ヶ岳の樹木で自然の庭に
- ・敷地は傾斜をそのまま活かして広々と

## 木の家は心地よい

木の家は、一步足を踏み入れた途端、安らぎを感じる。それは、木がもつ温もりかもしれない。

### ↑ 木の温もり、木の断熱力

化粧合板だった床の上に無垢の床材を張ったところ、夏は素足で気持ちよく、冬は床が暖かくなった。無垢の木の心地よさは想像以上だったそうだ。

### ↑ 木は生きている、木の湿度調整力

木は、夏は湿気を吸収し、乾燥した冬に水分を出すため、木が多く使われた室内の空気は、心地よい。

### ↑ 木の味わい、木のやさしさ

木の家の梁や柱は、時と共に、色や艶が深みを増し、味わいが出る。一方、新建材の家は、完成時が最高で、次第に色褪せ、古く（弱く）なっていく。自然の木の木目や節には、合板や壁紙の工業製品にはない自然ならではの表情があり、優しく感じる。

### ↑ 木の家は、しなやかで強い

木造建築は、気候に合った家作りができるのが特長で、家にも人にもやさしい作りといえる。伝統工法の家は地震に強いことが実証され始めた。

## 地元の木・国産の木を使おう

地元の木は、土地の気候風土に合っているため、耐久性が高い。地元の木・国産材で家を建てれば、材木の需要が、森の整備につながり、元気な森に再生できる。環境保全のためにも国産の木を使おう。

## 古民家から学ぼう家づくり

その地域の風土から生まれ、統一感のある美しい家並み景観を作る古民家から学ぶことは多い。

- ・地元産の素材(材木・石など)を使用  
→自然に溶け込み、美しい。
- ・長いひさし→家を守る。日本は雨量が多く、雨脚も強い。夏の日射し、冬の雪よけにもなる。
- ・大屋根→家によく、落ち着いた外観を形成する。
- ・通気が良い→日本の高温多湿に合っている。